

被災地に希望をひろげよう

青年ボランティア ニュース

第一号 2011/4/28

民青同盟・青年ボラ
ンティアセンター

TEL0191-31-8036

27日、全国青年ボランティアセンターを開設しました。被災地のみなさんとともに、救援・復興への歩みを少しでも前にすすめられればと思います。よろしくお願ひします。

全国青年ボランティアセンターが活動開始

「みんなの気持ちを温かくしてくれた」

27日は、陸前高田市の広田小学校に行き、救援物資としてよせられたお花の苗を植えました。小学校では授業が始まっていますが、避難所として、今でも大勢の方がすごしています。副校長は、「せっかくだいた苗を植えるゆとりもなかった。来ていただいて本当に助かります」といいます。

小学校で、花の苗を植える

まず、花壇を耕す作業をしました。東京からきたボランティアが、慣れない手つきでクワをふるっていると、避難所にいるおじさんが教えてくれ、いっきに上達しました。1年生の子どもたちは、生活科で「春を探そう」とのテーマで花壇に。虫を見つけて大騒ぎしながら、いっしょに作業をしてくれました。

「どこから来たの？」と聞いてくる子どもも。「東京だよ。行ったことある？」と話しかけると、「春休みに、そっちにあるおじいちゃんの家に行く予定だったけど、地震がきてダメになっちゃった。まだ行ったことない」といいます。少しでも早く日常を取り戻してほしいと願ひながら、お昼休みは、おっかけっこなどで一緒に遊びました。

避難所の方々とも対話に

避難所にいる被災者の方々とも対話になりました。「船が流された。新しいのは2~3千万するし、もうやってらんない」など、将来不安が口々にだされました。

この日の作業では、53株のパンジーとビオラを植えました。青、黄、白、ピンクの色とりどりの花がきれいに見えるように、と工夫しながら並べました。ある被災者は、「ことしは桜をみても暗い気持ちになるだけだったけど、若い人たちが一生懸命植えてくれたお花は、きっとみんなの気持ちを温かくしてくれると思うよ」と話してくれました。

一日の作業をおえ、夜のミーティングでは、未来を担う青年によるボランティアで少しでも希望を届けられれば、と語り合いました。

参加者の声から

「震災ボランティアは初めて。被災地に入って、見渡す限りの被害は衝撃だった。どう声をかけたらいいのか、"ありがとう"と言われてどう答えたらいいのか、戸惑ってしまった。でも、実際にきてみてボランティアは必要と実感した」

今後は漁村の片付けも

港にある漂流物を片付け、アワビやウニの漁をはじめられるようお手伝いする計画です。

ブログをはじめました

<http://kaerunet.air-nifty.com/kyuen/>